

令和7年3月定例記者会見要旨(令和7年3月26日)

1. 大阪関西万博まで1カ月を切り、香川県では瀬戸内国際芸術祭の開催も迫ることから、双方イベントが連動した交流人口の増加に向けての坂出市の取り組みの現状について、また、県や他の市町とどのように連携していきたいかお聞きしたい。

大阪関西万博では、香川県と連携し、期間中に県が開催する自治体催事の中で、他市町とともにコミュニケーションブースを出展する予定でございます。出展内容といたしましては、世界的にも珍しいサヌカイトが持つ音の魅力を通じて、本市を知ってもらう機会とするため、風鈴などの展示・販売やサヌカイトを組み合わせる音が鳴るお守りを作るワークショップなどを実施する予定でございます。また、坂出というまちに息づく情景を、音と映像を通して感じていただくため、ブースに本市の地形を模したミニ模型を展示し、場所ごとに設置したQRコードから動画が見られるようにすることで、本市の多様な魅力を発信し、新たな関係人口の創出につなげてまいりたいと考えております。

また、現在、瀬戸内国際芸術祭2025の春会期に向け、準備を進めているところでございます。前回は、コロナ禍での開催でありましたので、断念したコンテンツも多々ございましたが、今回、瀬居町では総勢16名のアーティストが集う一大プロジェクト「SAY YES」の展開が予定されており、多くの来場者数が期待されます。瀬戸内国際芸術祭2025開催時の交流人口の増加に向けた取り組みといたしましては、作品が多く設置される旧瀬居中学校にて、市内の小学生親子で構成されたボランティア「坂出親子おてつ隊」によるお接待や、地元自治会・婦人会などによる地元の食材を使った食事の提供、坂出市観光協会による地元の土産物や特産品の販売・紹介ブースの設置を予定しております。土産物や特産品の販売・紹介ブースでは、大阪関西万博の坂出市ブースでも紹介するサヌカイト商品も取り扱う予定としており、連携したPRの実施に努めたいと考えております。地元をはじめ、国内外からさまざまなかたが訪れる瀬戸内国際芸術祭は、地元産品を幅広いかたにアプローチできる絶好の機会となりますことから、イベントを最大限に活用し、市内土産物や特産品の認知の拡大を図ってまいります。加えて、ブースにて、市内観光パンフレットの積極的な配布や、市内観光名所の紹介ポスターの掲示により、市内への周遊を促進するほか、季節ごとに開催される市内の祭りやイベントポスターを掲示し、坂出市に興味を持っていただけるような装飾を施すことで、リピーターの確保を図り、観光振興を推進してまいりたいと考えております。

また、大阪関西万博や瀬戸内国際芸術祭2025の開催を契機に、観光需要の一層の喚起が期待される中、中讃地域の自治体や観光協会、民間事業者で構成される「さぬき瀬戸大橋広域観光協議会」では、令和7年度、年間を通して「さぬきのまんなか観光博覧会」を開催し、中讃地域で実施されるイベントや祭りと連携し、広域圏のより一層のPRや観光誘客をめざしていく予定としております。

いずれにいたしましても、香川県や他市町、地元のかたなどと連携しながら、本市の魅力発信に努めてまいりたいと考えております。